

はじめに

昨今、大学では入学前事前教育や、初年次教育が盛んに行われるようになってきました。そこでは、主として大学組織の説明や、大学での講義の受け方や学習の仕方といった内容が取り扱われています。これらの初年次教育が盛んに行われる背景としては、さまざまな要因が挙げられていますが、最も大きな要因はコンピュータやインターネットの普及であると、筆者は思っています。従前においても、『知的生産の技術』（梅棹忠夫著、岩波書店）等に代表されるように、知的活動方法や技術に関する内容はしばしば取り扱われてきました。しかし今、それが大きく取り上げられるのは、コンピュータやインターネットの普及によって、それらの方法が大きく変化しているからです。コンピュータやインターネットは従前の資料の検索や、手書きの文書作成に替わるツールとして、今、知的活動や社会における業務の方法を大きく変えつつあります。本書では、このコンピュータやインターネットの、大学生の知の情報ツールとしての側面に焦点を当て編集をしました。

■大学生の知の情報ツール コンピュータ

大学ではさまざまな知的活動を行っていきます。まず、講義を受講しますが、講義は話を聞いてそれで終わりというわけではありません。正確な知識や理解を得るためには、情報検索と収集が必要です。内容がある程度まとまってくると、レポートや論文を書くことが求められます。クラスやゼミナールで発表し、教員や他の学生諸君と議論をする機会も多くあります。そのため、発表資料の作成や発表の仕方も学ばなければなりません。大学におけるこのような知的活動には、コンピュータやインターネットが欠かせない必須アイテムです。したがって、大学での知的活動は、このコンピュータをどのくらい駆使できるかということにかかってくるのです。

このような観点に焦点を当て、本書は、以下のような構成としました。

前編（Ⅰ）

- 第1章 大学生の知の情報ツール
- 第2章 Word2010 を使った知のライティングスキル：Word2010 の基本操作
- 第3章 PowerPoint2010 を利用した知のプレゼンテーションスキル
PowerPoint2010 の基本操作

後編（Ⅱ）

- 第1章 Excel2010 を利用した知のデータ分析：Excel2010 の基本操作
- 第2章 Google による情報検索とクラウドコンピューティング

この知の情報ツールは、皆さんの新しい可能性を大きく広げてくれることでしょう。

■本書で学ぶ学生諸君へ

このテキストは、「コンピュータに初めて触れる」または「少し知っているけれどもより進んだ知識や操作を習得したい」という学生諸君を対象として、コンピュータ技術、および、基礎的な知識を得ることができるよう編集されました。

本書は1年間の講座を終えた後も、時々開いてみてください。

本書で学び、知の情報ツールとしてのコンピュータやネットワークに関する知識と技術を身に付けた皆さんが、自らの新しい世界を開いてくれることを、そして本書が皆さんの良き礎、書となることを願っています。

2012年3月

拓殖大学政経学部
森 園子